

麦類赤かび病の適期防除を徹底しましょう

赤かび病は、人畜に有害なデオキシニバレノール(DON)等のかび毒を生成するため、赤かび粒の混入した麦は販売することができません。このため、**予防的な防除を行い、発生防止に努めることが重要です。**

本年は暖冬のため、**麦の生育が平年より進んでいます。**防除時期も平年より早まることから予想されるので、麦の生育ステージに合わせて確実に適期防除を行いましょう。

防除対策

- 1 薬剤による赤かび病防除は散布時期が重要であり、二条大麦では穂揃期(全茎の8~9割が出穂した時期)から穂揃期10日後、小麦・六条大麦では開花期の防除効果が高い。この時期をのがすと防除効果は著しく低下する。
- 2 降雨が続き、多発生が予想される場合(不稔粒発生・登熟期連続降雨等)は、1回目の薬剤散布から7日後に2回目の散布を行う。同系統薬剤の連用は避け、収穫前日数に留意して使用薬剤を選定する。
- 3 六条大麦や追肥をした小麦(タマイズミ等)は、赤かび病に感染しやすいため、特に防除を徹底する。

表 麦類赤かび病の主な防除薬剤(平成19年4月3日現在)

薬剤名	作物名	希釈倍数	使用時期(収穫前日数)/使用回数
ストロビーフロアブル	麦類	2,000~3,000倍	14日前/3回
トリフミン水和剤	麦類	1,000~2,000倍	14日前/3回
ベルコート水和剤	小麦	1,000~2,000倍	21日前/3回(出穂期以降は1回)
チルト乳剤25	大麦	1,000~2,000倍	21日前/1回
	小麦	1,000~2,000倍	3日前/3回
トップジンM水和剤	麦類(小麦を除く)	1,000~1,500倍	30日前/3回(出穂期以降は1回)
	小麦	1,000~1,500倍	14日前/3回(出穂期以降は1回)

<無人ヘリでの防除薬剤>

薬剤名	作物名	希釈倍数	使用時期(収穫前日数)/使用回数
チルト乳剤25	大麦	8倍	21日前/1回
	小麦	8倍	7日前/3回
トップジンMゾル	麦類(小麦を除く)	4倍	30日前/3回(出穂期以降は1回)
	小麦	4倍	21日前/3回(出穂期以降は1回)

* 薬剤の使用に当たっては、使用上の注意をよく読んで適正に使用する。

* 薬剤は有効成分の総使用回数にも制限があるので注意する。

詳しくは、農業環境指導センターまでお問い合わせください。

028-626-3086

<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/>